

# 浅間山

概況(平成15年5月)

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

噴煙活動はやや活発な状態が続いています。4月18日の極小規模な噴火以降、有色噴煙の噴出は観測されていません。

地震活動は、やや活発な状態が続いており、火山性微動が時々発生しました。

5月6日および22日に火口観測を行なった結果、火口底温度の高い状態が観測されました。

以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な活動は起こる可能性はありますが、現時点では顕著な地震活動や地殻変動等の変化は観測されておりません。山頂付近では少量の降灰や火山ガス、また風下側の山肌を流下する火山ガスには注意が必要です。

## 地震活動および噴煙活動の状況

2000年9月から地震活動のやや活発な状態が続いています。1日あたりの地震回数は10~30回程度で推移しています(全て無感地震、表1、図1、図4)。火山性微動は多い時で1日に3回発生しましたが、基準観測点(B点、火口の南約2km)での振幅は最大で0.2 $\mu$ m、継続時間は最長で約4分と規模の小さいものばかりでした(表1、図2、図5)。

また、遠望カメラによる観測では、噴煙活動はやや活発な状態が続いています(図3、図6、図7)。

表1 火山性地震・火山性微動日別回数表(浅間山)

浅間山(B点)													
上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0		3	
低周波地震	9	18	13	20	26	17	17	12	27	17		176	
微動	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0		6	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1	
低周波地震	16	19	28	25	18	12	18	20	16	17		189	
微動	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2		5	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	2	6	10
低周波地震	16	9	13	15	22	26	28	19	18	33	13	212	577
微動	0	1	0	1	1	1	1	3	0	2	0	10	21

短期・日別 地震活動推移 (最近2年間の火山性地震・火山性微動の日別回数)

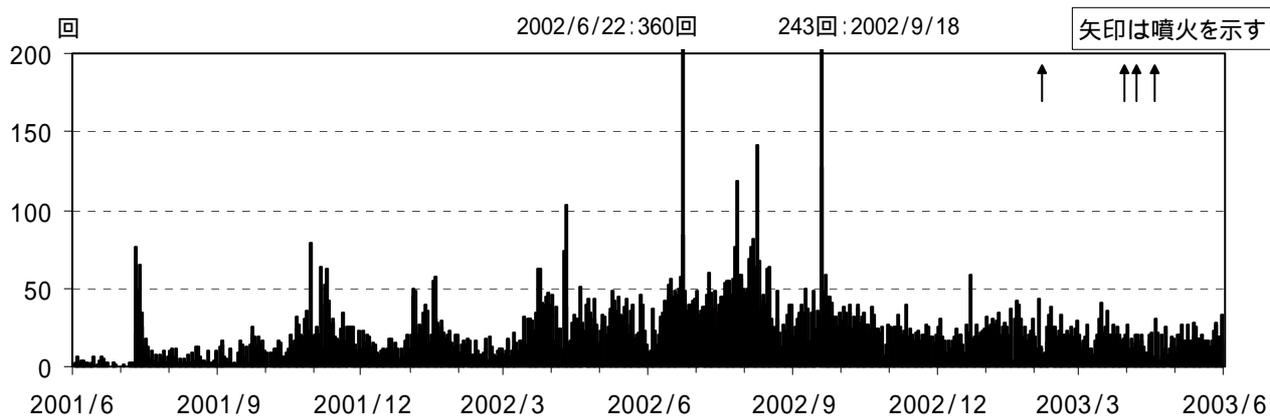


図1 浅間山 火山性地震日別回数(2001年6月1日~2003年5月31日)

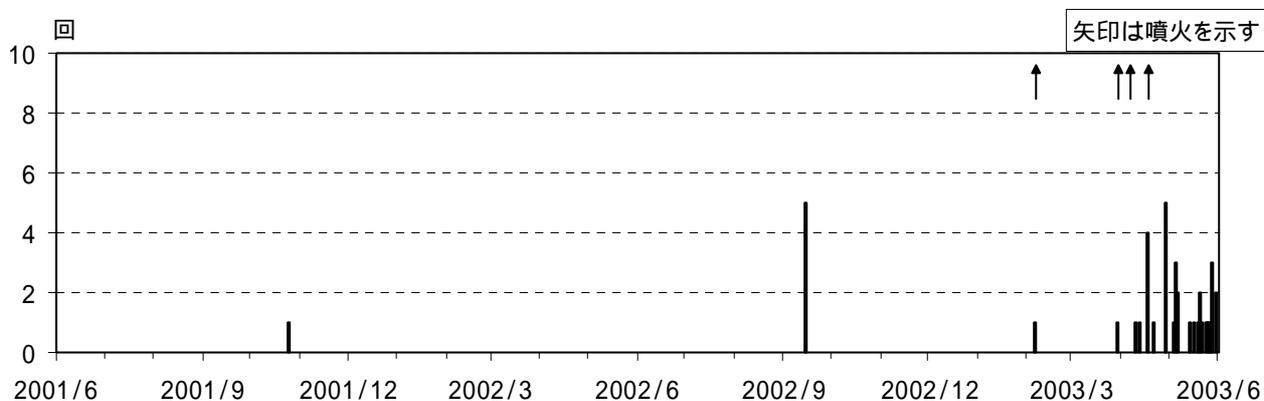


図2 浅間山 火山性微動日別回数(2001年6月1日~2003年5月31日)

短期・日別 噴煙活動推移 (最近2年間の日別噴煙高度)

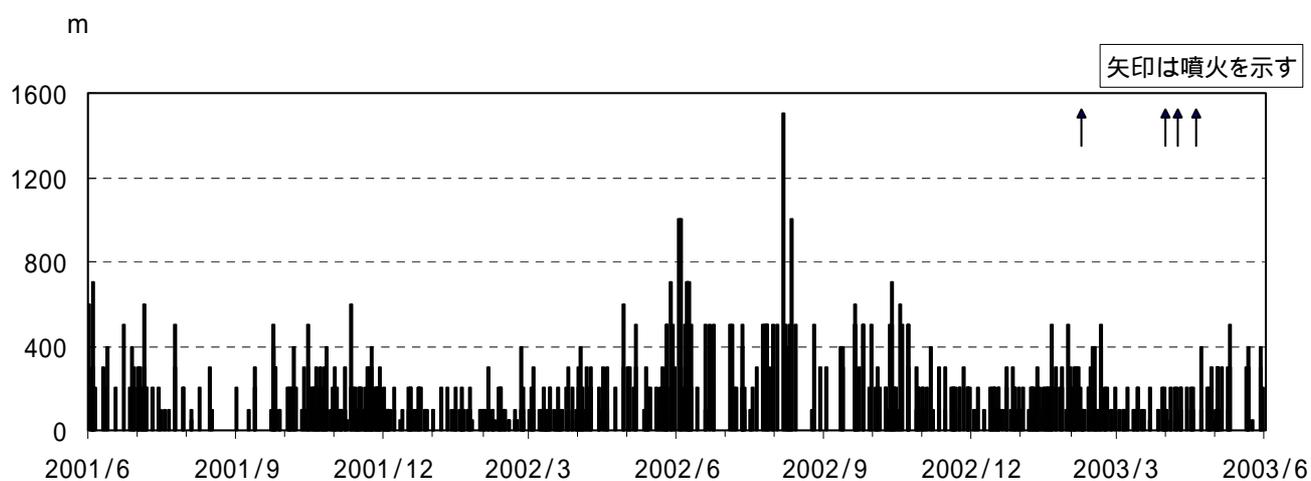


図3 浅間山 日別噴煙高度(2001年6月1日~2003年5月31日)

長期・月別 地震活動推移 (1964年1月以降の火山性地震・火山性微動の月別回数)

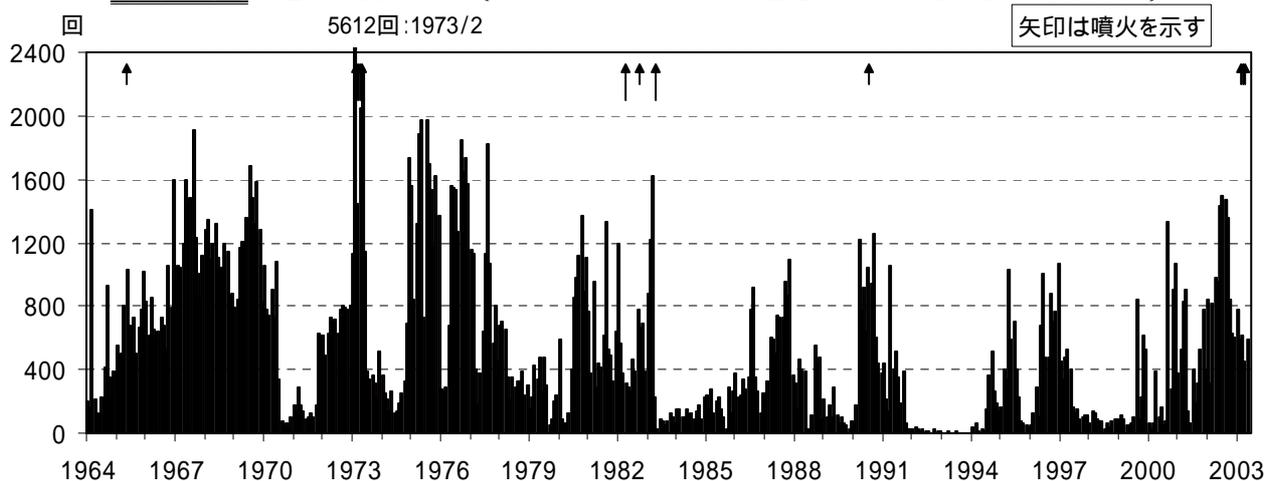


図4 浅間山 火山性地震月別回数(1964年1月~2003年5月)

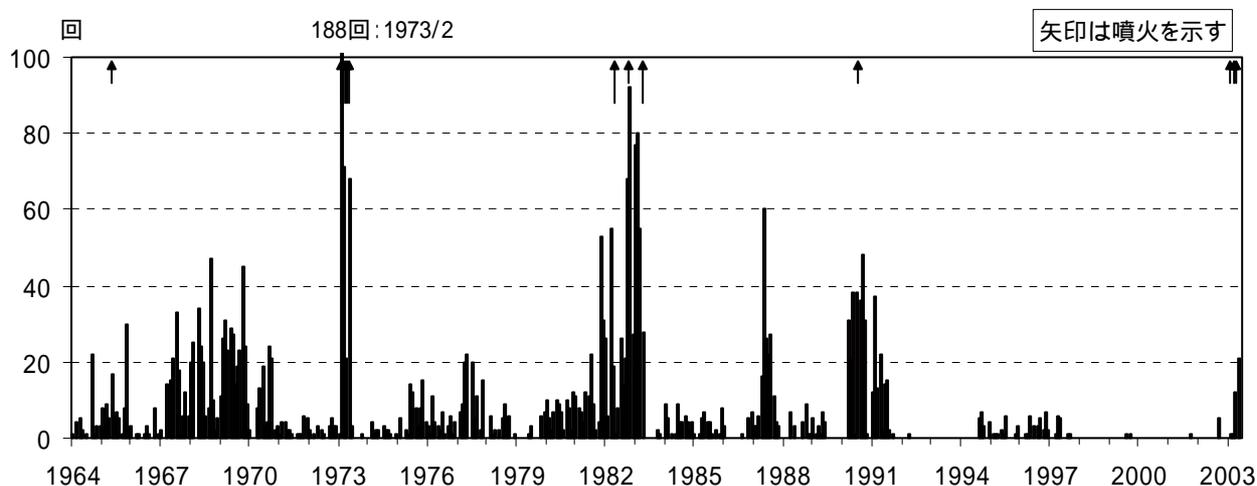
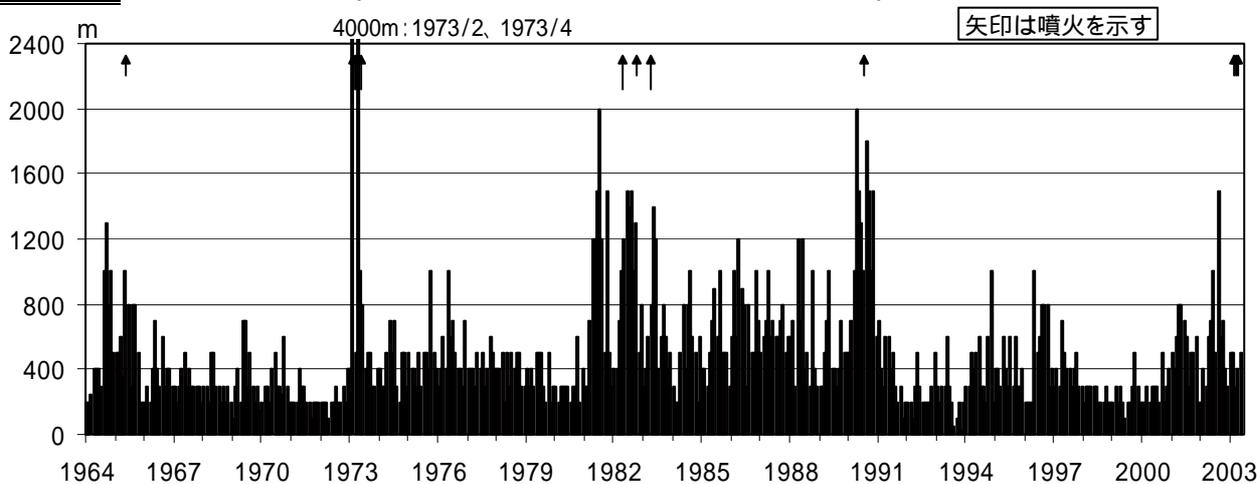


図5 浅間山 火山性微動月別回数(1964年1月~2003年5月)

長期・月別 噴煙活動推移 (1964年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量)



\*09・15時の定時観測のうちで最大を示しています

図6 浅間山 月別噴煙高度(1964年1月~2003年5月)

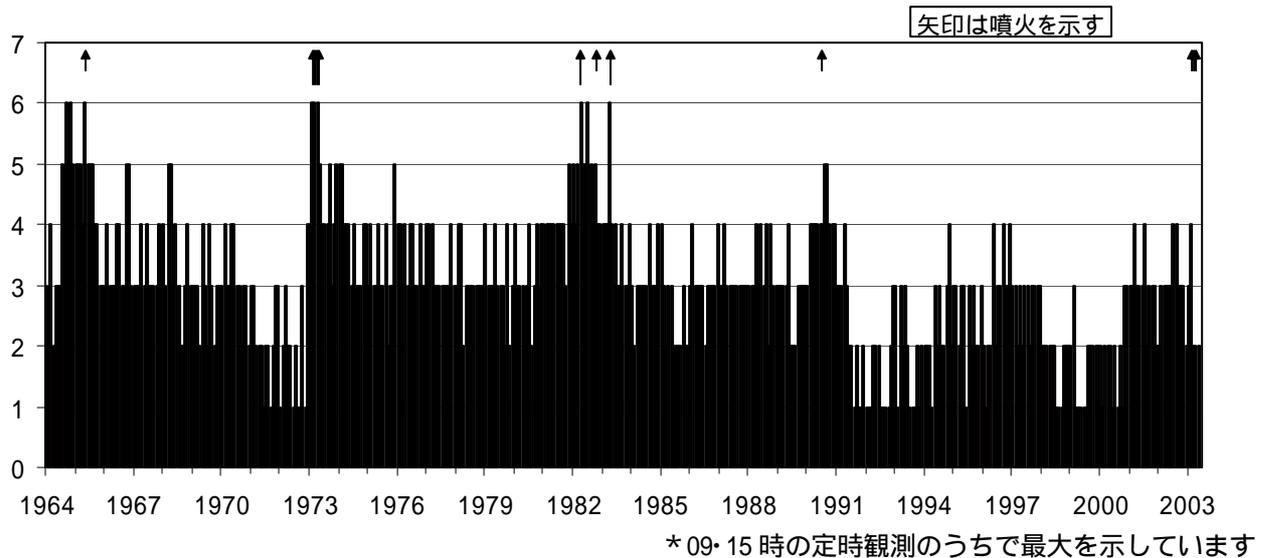


図7 浅間山 月別噴煙量（1964年1月～2003年5月）

### 火口内の状況

5月6日および22日に火口観測を行った結果、前回の火口観測（2002年10月）以降、火口底最深部付近に新たな噴気孔が数個出現した事が確認されました。このうち2ヶ所は直径数mで内部は赤熱しており、赤外熱映像装置により測定した地表面温度は最高642℃でした。この新たな噴気孔以外は火口内の地形に大きな変化は認められませんでした（図8～11）。

6日の火口観測の際、火口の東約300mの雪渓において降灰および最大直径約4cmの火山礫を確認しました。これらは、2月～4月に発生した極小規模な噴火の際の噴出物と考えられます。

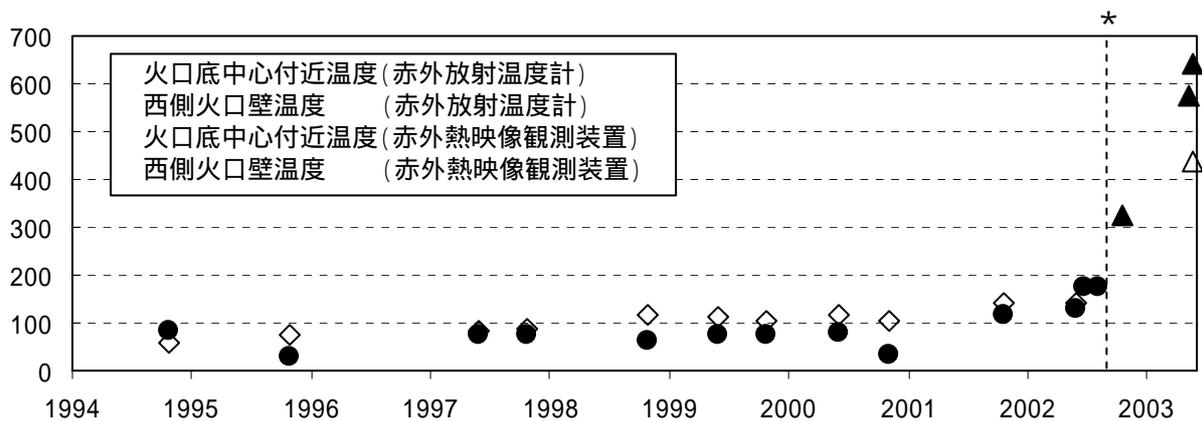


図7 浅間山 火口底地表面温度

\*2002年6月までは、赤外放射温度計により、10月からは赤外熱映像観測装置による測定

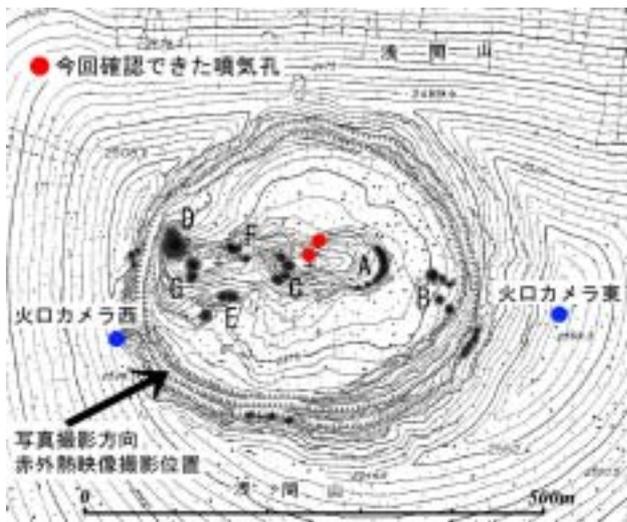


図8 浅間山火口地形図



図9 浅間山火口底(南西方向から撮影)

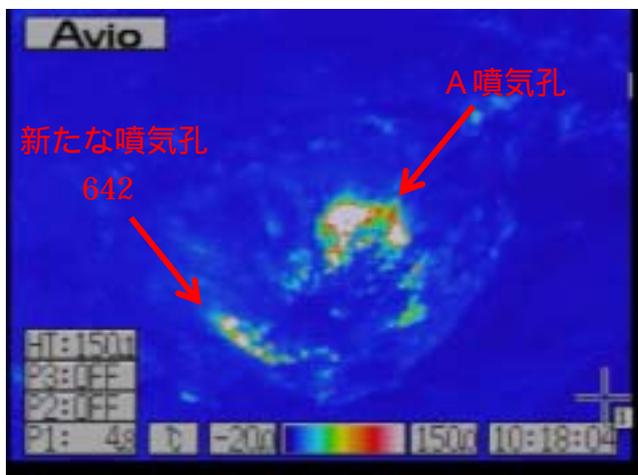


図10 浅間山火口熱赤外映像



図11 浅間山火口最深部付近

火山ガスの状況

2002年7月より二酸化硫黄の放出が多い状態が続いているため、ほぼ毎月二酸化硫黄放出量の観測を行ってきましたが、5月は天候不良のため観測できませんでした。

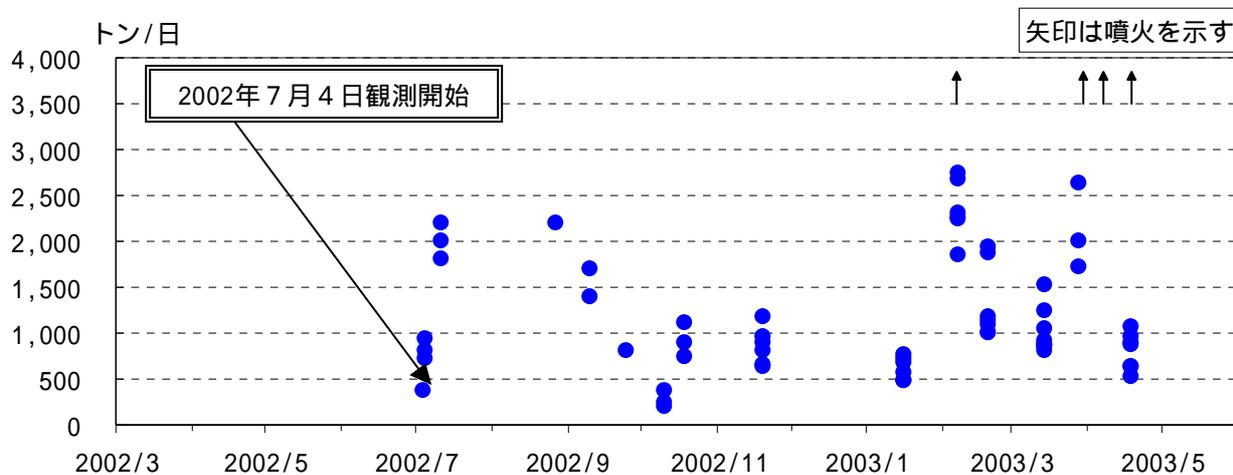
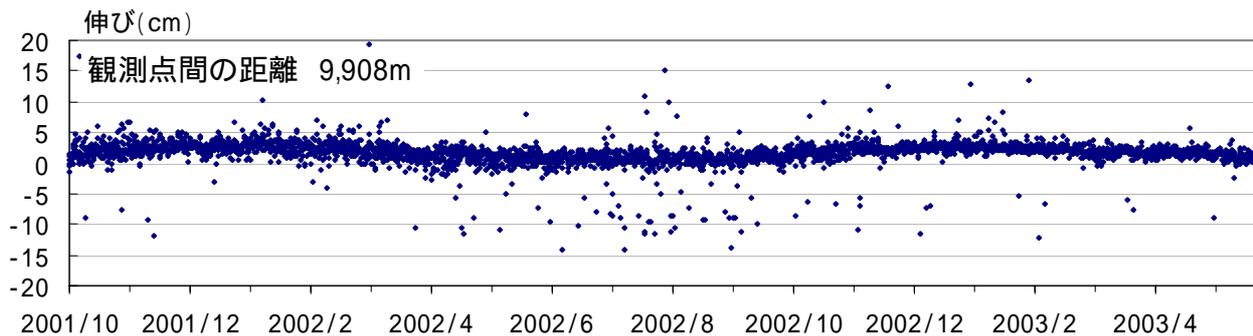


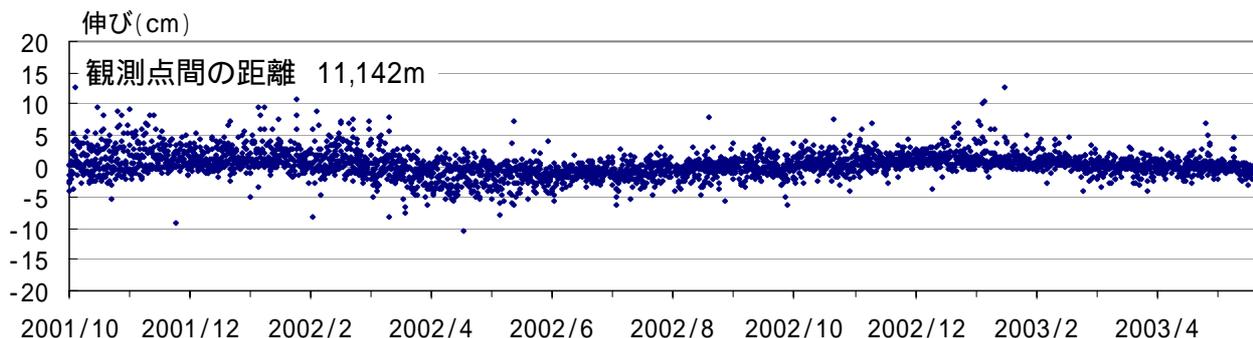
図12 浅間山 二酸化硫黄放出量(2002年7月~2003年5月)

地殻変動の状況

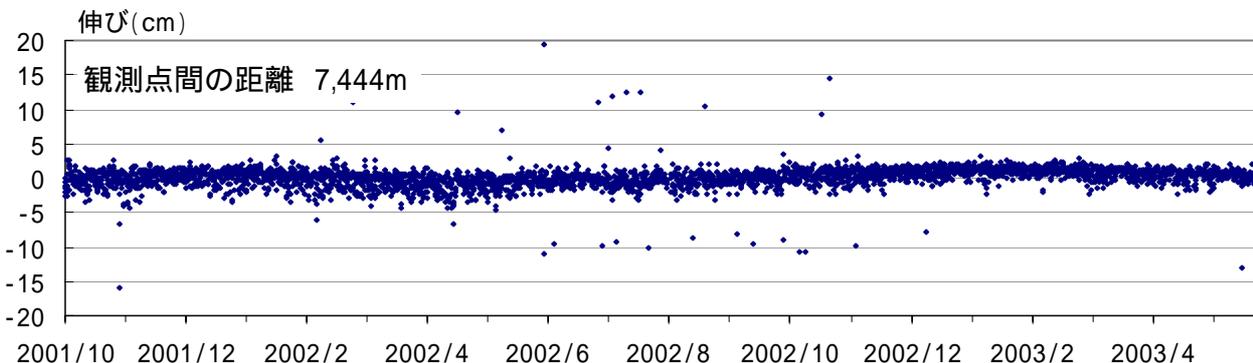
GPS観測ならびに傾斜観測では、火山活動によるとみられる顕著な変化はありませんでした(図13)。



追分 - 高峰高原 基線長変化



追分 - 鬼押出し 基線長変化



高峰高原 - 鬼押出し 基線長変化

図13 浅間山 GPS観測結果(2001年10月1日~2003年5月31日)

